

〔セクションⅠ〕基礎基本の理解度アップ

障がいの理解

～「障がい」を環境から捉える～

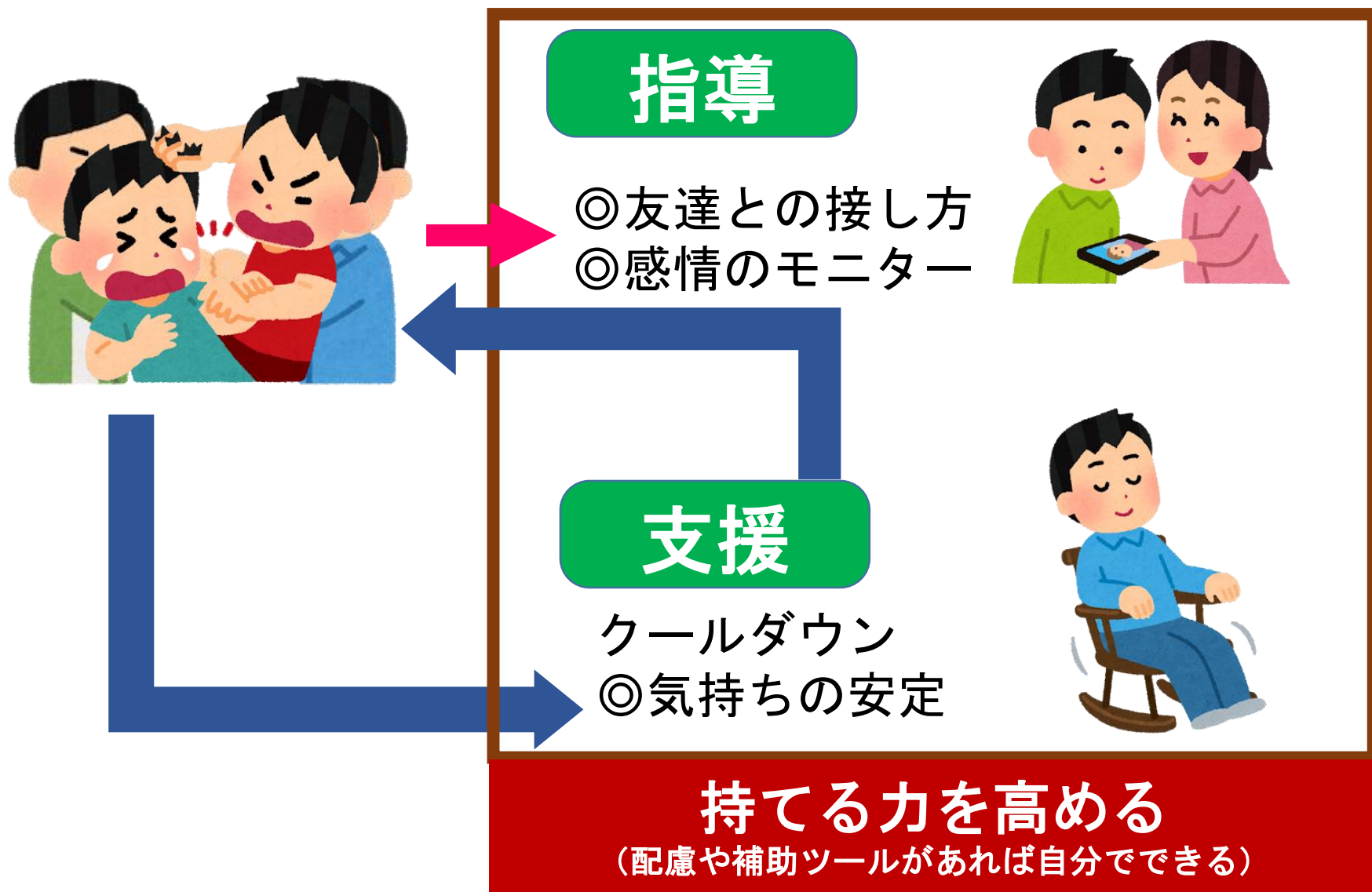


研修動画は
こちらをクリック
又は読み込み

生活上又は学習上の困難さ



1 適切な指導及び必要な支援



2 自立活動の考え方

障がいのある子供の場合は、その障がいによって、日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じる。

心身の発達の段階等を考慮して教育する。



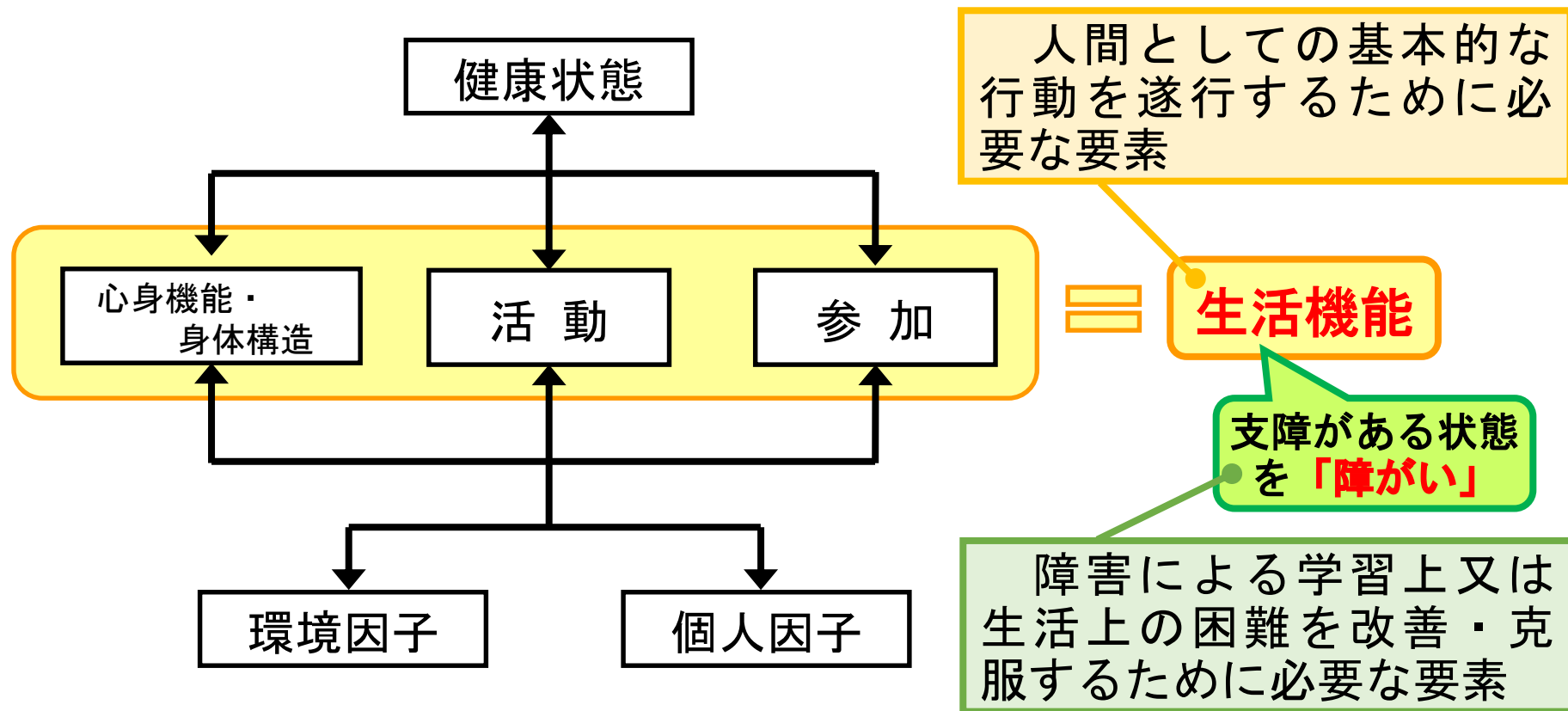
心身の発達の段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えない場合がある。



個々の障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要。

3 障がいの捉え方

❖ 構成要素間の相互作用の図

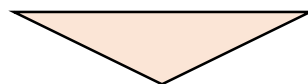


「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」
文部科学省（平成30年3月）

4 障がいの「社会モデル」

全ての教師に求められる特別支援教育に関する専門性

- 障がいの特性等に関する理解と指導方法を工夫できる力
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画などの特別支援教育に関する基礎的な知識
- 合理的配慮に対する理解 等



- いわゆる「社会モデル」の考え方を踏まえ、障がいによる学習上又は生活上の困難について本人の立場に立って捉え、それに対する必要な支援の内容を一緒に考えていくような経験や態度の育成

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」文部科学省（令和3年1月）

5 「医学モデル」と「社会モデル」

「医学モデル」で考えると・・・



「この子は、落ち着きがないなあ。」

「病院に行って診察してもらってはどうか。」

子供の心身機能等だけを原因とする

「医師による治療が解決策」



子供の環境は？



「社会モデル」で考えると・・・



「落ち着きがないのは、**環境**のせいかもしれない。」

「興味のある活動を取り入れるなど、**学習活動**の工夫や改善が必要かもしれない。」

学習者が能動的に学習できる働き掛け



「興味のあるものを教材にしよう。」

「動きのある活動場面を作ろう。」

「活動の見通しが持てるように提示を工夫しよう。」

など

医学モデル

個人因子

気になる行動は、子供の内側にある心身機能や身体構造によって起こる。

社会モデル

環境因子

気になる行動は、子供の内側にある心身機能や身体構造と子供の外側にあるモノや制度・文化などの**環境との相互作用**によって起こる。



環境との相互作用が困難を生み、
気になる行動を大きくしているという考え方



子供の立場になって
困難を捉える



6 氷山モデル



〔子供の行動等〕
イライラすると、大声を出したりク
ラスメイトや教員に乱暴な言葉遣い
をしたりする

見える姿



〔背景要因を検討する手掛かり〕

- ・ 行動観察・記録
- ・ 複数の教員による情報収集
- ・ 本人の話
- ・ 保護者の話（生育歴） など

見えない
要因

個人因子

環境因子

重要！

演習

冰山モデルで考える

〔子供の行動等〕

見える姿

〔背景要因を検討する手掛かり〕

見えない
要因